

仲間やふるさとを大切にし、何事にも積極的に取り組む児童生徒の育成

ねがい

〈目的〉

小学校との連携を細やかに行うことで、中学校生活へのスムーズな適応を促し、問題行動や不登校生徒の減少を目指します。

つながり

〈内容〉

● 小・中合同「さぬきっ子あいさつ運動」

小・中学校が道を隔てて隣接していることの特徴を生かして、9月5日(水)・6日(木)の2日間、向かい合っている両校の校門並びに多くの児童生徒が通行する交差点の2か所で、合同のあいさつ運動を実施しました。小・中学生がお互いのあいさつの仕方のいいところを発見するとともに、小学生と中学生の交流が行えました。また、交差点を通行する地域の方々にも、大きな声であいさつし、あいさつを返されたことで充実感を味わうとともに、地域に貢献することができたという喜びを感じることができました。



【小・中合同あいさつ運動の様子】

● 6年生体験授業

例年であれば、2月の新入生説明会のときに実施していた体験授業を11月28日(水)に行いました。これは、できるだけはやく中学校の授業を体験することで、中学校の授業規律や授業の進め方等の雰囲気を感じ、不安を解消するとともに小学校卒業までの間の意欲的な学習につながることをねらいとしています。



【6年生体験授業の様子】

● 生徒指導・特別支援・健康な生活の実践化に関する連携

小・中学校の生徒指導担当者や教育相談担当者、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、旧6年生学級担任、中学校1年団職員等が担当ごとに情報交換会を開催し、今後の指導に役立てました。

● 学校行事での交流

9月14日(金)の中学校の「表現活動」発表会(総合的な学習の時間の学習内容を劇やミュージカル、紙芝居にしたもの)に6年生を招待し、中学校での取り組みを紹介しました。

● 授業参観等での交流

年間数回、教員がお互いの学校に出向いて、T・Tで授業をしたり、授業参観を行ったりして、各教科の系統性の確認や授業規律の在り方等について情報交換を行っています。

高まり

〈成果〉

小学校・中学校の教員が目的意識をもって情報交換や現状分析をする機会が増えたこと、また、T・Tで授業に参加したり、授業参観をしたりすることで、児童生徒の状況を詳しく把握することができました。さらに、授業の指導方針や学習規律についても共通理解を図ることができました。小学校の児童は、中学校への訪問で中学校での生活や学習内容・行事等について詳しく知ることができました。